

FRUEHAUF Fan

2012 Vol.11

[フルーフ・ファン]

特集：31ftウィングコンテナ

日本石油輸送株式会社



日本石油輸送株式会社
営業3部2グループ部長
(コンテナ部門)
執行役員
高橋 文弥 氏



フルーフヒーローズ

1969年(昭和44年) 40フィート・ドライ・カーゴ・コンテナ

昭和40年代の大量輸送時代にふさわしい大型コンテナとして登場したのが、日本フルーフが日本海事協会(N・K)から型式認定を得た40フィート・ドライ・カーゴ・コンテナKAX-40TR(スミーズ・スキン、トンネル・リセス付)だ。

このコンテナの構造は、当時の国際規格の仕様にならったものであるが、外寸法は国際規格の8×8×40に対して、8.6×8.4×40と、高さだけが異なっていた。これは当時の貨物積載量増大の要求に応えたものだ。陸上運送時の全高の問題は、コンテナの前面下部に当社独自の設計によるトンネル・リセスが付けられ、シャシとの組み合わせで解消されるようになっていた。

主な特長としては、①天井には、クレーン用の吊り上げ金具が装備されており、荷役の簡略化、効率化を図ることができている。②自重は2,970kgと他の同型コンテナよりも軽いため、最大積載重量は27,510kgとなっており大量の荷を積むことができる。③床面は木材のみで床張りしているため床面からの結露による荷傷みがない。④後部扉は海上輸送時を想定し、15トンの横方向からのラッキン

※「トンネル・リセス」別名「グースネック」トンネルとも言う。コンテナ前面下部にあり、トレーラ積載時にシャシ前部の突起と組み合わせるための細長い窪み。

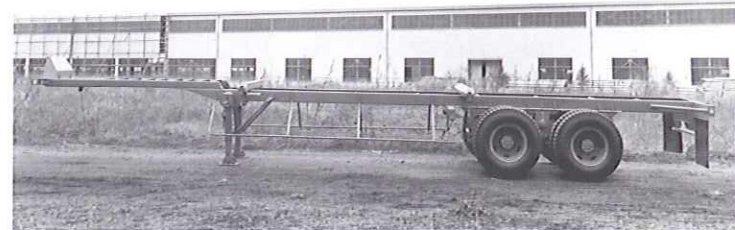


1969年(昭和44年) シャシ・トレーラ

スチールの骨組みだけの外観から、ケルトンとも呼ばれていたシャシ・トレーラは、コンテナ船の出入り時に、コンテナの集配に大活躍を見せていた。ある時は、輸出入の電気製品、陶磁器などを積んだパン型コンテナ、冷凍マグロなどを積んだ冷凍コンテナ、板ガラス、機械類を積んだオープン・トップ、しゅう油を積んだタンク・コンテナなどをヤードに運ぶ。そしてある時は輸入製品を満載した各種コンテナを荷受人の戸口に届けていた。

シャシ・トレーラは、荷台と分離されたコンテナを有効に動かすことで、道路、海、鉄道とを結ぶ一貫輸送というシステムの中で不可欠な機器だ。シャシ・トレーラが生まれたきっかけは、当時の米國フルーフの社長の協力を得たシーランド社の社長が、ヒューストン港からニューヨークまで足回りのないトレーラを運んだのが、アイデアの始まりだった。

この時初めて、コーナー・フィッティングの考えが採用されたが、これを開発したのがフルーフ。これにより従来行なっていたトレーラを船へそのまま積み込む場合に比べて、荷役コストが半減したという。



初期型シャシ・トレーラ(シーランドタイプ:コンテナをサイドのクランプで固定していた)



この時初めて、コーナー・フィッティングの考えが採用されたが、これを開発したのがフルーフ。これにより従来行なっていたトレーラを船へそのまま積み込む場合に比べて、荷役コストが半減したという。

日本フルーフグループの全国ネットワーク

フルーフはISO9001/14001の認証を取得し、環境にやさしく、高品質の製品と高信頼のサービスをお届けしています。

営業品目：アルミバン、保冷・冷凍車、ウイングトラック、各種トレーラ、各種コンテナ、各種部品、修理

本社：〒243-0281 神奈川県厚木市上依知上原3034 046(285)3111(代)

営業部門：〒140-0001 東京都品川区北品川1-20-9(ダヴィンチ品川ビル) 03(3474)5720(代)
(東京事務所)

生産拠点：苫小牧/厚木/滋賀/岡山/佐賀

販売拠点：北海道 011(723)8750 / 盛岡 019(672)5472 / 仙台 022(792)8630 / 新潟 025(243)0520 / 石岡 0299(24)1275 / 北関東 048(661)9051
東京 03(3863)8011 / 多摩 046(284)2555 / 神奈川 046(284)2107 / 静岡 054(285)3397 / 北陸 076(232)5588 / 名古屋 052(532)7051
阪神 06(6390)8257 / 岡山 0869(84)4300 / 広島 082(262)2005 / 四国 087(863)8078 / 九州 0952(53)8110 / 南九州 099(284)1634



業界 NEWS

環境省・国土交通省 31ft鉄道コンテナの導入に半額補助制度

物流の低炭素化を促進していくために、環境省と国土交通省の連携事業として、モーダルシフト拡大へ向けた補助金制度が認められ、2012年度予算案に1億6,900万円が計上されました。

この中に、10トントラック並みの積載能力を持つ鉄道輸送用の31ftコンテナを普及させるため、JR貨物や鉄道利用運送事業者が、31ftコンテナを導入する場合、購入費用の1/2が

補助される制度が盛り込まれました。これにより、大きな投資が必要となる31ftコンテナの導入に弾みが付くことが期待されています。



日本石油輸送株式会社 営業3部2グループ部長 (コンテナ部門) 執行役員 高橋 文弥 氏
 日本石油輸送株式会社 営業3部2グループ (コンテナ部門) マネージャー 岩沙 裕之 氏
 日本石油輸送株式会社 技術部 副主事 宗村 和弘 氏

日本フルハーフにおまかせ!

Request レクエスト レスポンス Response



フルハーフサービス株式会社 本社 工場長 石川 三男
 日本フルハーフ株式会社 広域営業部 営業開発グループリーダー 川口 尚史

モーダルシフトへのニーズが高まる31ft鉄道ウィングコンテナを26個導入
 当社では、石油タンク車やLNG輸送用コンテナを保有して、石油、高圧ガスなどの鉄道輸送と、トラックを含めた一貫輸送を展開するとともに、冷蔵・冷凍コンテナや31ftウィングコンテナなど約8,300個を保有して、鉄道コンテナのレンタル・リース事業を行っています。鉄道用の31ftウィングコンテナは、運送会社のトラック輸送から鉄道輸送へのモーダルシフト需要の高まりを受けて、9年前に導入。鉄道用としての強度を持ち、荷役もしやすいことが決め手となり、日本フルハーフの31ftウィングコンテナを26個導入しています。当社では引き続きお客様のニーズに合った輸送形態を提供し、モーダルシフトを推進していきますので、日本フルハーフの協力を仰ぎつつ、よりよいサービスを提供していきたいですね。

油圧装置のメンテナンスは、フルハーフサービスに依頼
 以前から、鉄道コンテナの修理・メンテナンスを依頼していた鉄道貨物ターミナル駅の修理工場では油圧装置の修理に対応していなかったため、31ftウィングコンテナ導入時からメンテナンスをフルハーフサービスに全面委託することになりました。現在は、故障した場合に指定輸送業者がフルハーフサービスの厚木工場へ搬送して、修理をお願いしています。また、2年に一度の油圧装置の油交換時に定期点検を委託しており、細やかなダメージチェックや的確な修理の提案をしてもらっています。

信頼のメンテナンスで、ウィングコンテナの長寿命化に期待
 古くからの日本フルハーフとの付き合いで、その技術力は十分に認識していましたので、フルハーフサービスの品質には安心できますね。例えば、経年劣化でパッキンなどが損傷した場合でも、パッキンを溶着する技術もあり、部品交換にコストをかけなくてもいいのは助かります。20ft以上の鉄道用コンテナは、トップリフターと呼ばれる特殊リフトで荷役します。そのハンドリングミスで天井や側壁が損傷するケースがありますが、迅速な対応をしてもらえますから、運送会社の使用に支障が出ることはありません。修理後の仕上がりも写真で報告があるので安心です。また、他社製品の修理・メンテナンスもお願いできるのはありがたいですね。31ftウィングコンテナは、元々、信頼性が高いうえにメンテナンスもしっかり行ってもらっていますので、導入から8年経った現在も問題なく使用しています。今後も現在の状態をキープできるようなメンテナンスをお願いしたいですね。

会社概要

日本石油輸送株式会社
 本社：東京都品川区大崎1-11-1
 ゲートシティ大崎 ウェストタワー
 設立：1946年3月27日
 代表者：代表取締役社長 栗本 透
 従業員数：173名

<所有車両>
 石油タンク車：約1,500両
 化成コンテナ：約5,600個
 LNGコンテナ：144個
 冷蔵・冷凍・ウィングコンテナ：約8,300個

<高橋 文弥氏コメント>
 当社では、石油、化成、高圧ガスの鉄道輸送事業と、冷蔵・冷凍コンテナ、31ftウィングコンテナなど、約8,300個のコンテナのレンタル・リース事業を展開しています。今後は、トラック・鉄道の一貫輸送をさらに推し進めるとともに、保冷機能付の鉄道用コンテナもさらに商品ラインアップを揃えたいと思います。モーダルシフトへ向けて、ぜひ当社サービスをご活用ください。

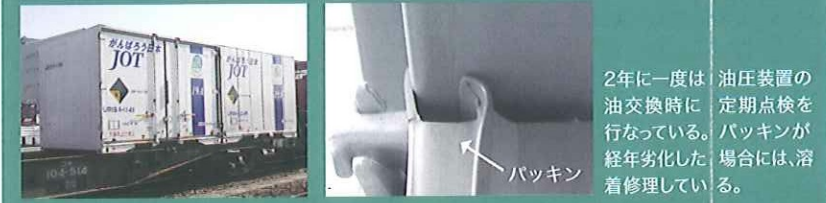
- 1** トラック輸送から鉄道輸送へのモーダルシフトとして31ftウィングコンテナを採用したい。
 ▶ トラック用アルミウィングボディの実績を生かし、堅牢かつ軽量のアルミウィングコンテナを納入しました。
- 2** 全国に展開する貨物駅のお客様が要望する、いかなる輸送区間にも対応したい。
 ▶ コンテナのメンテナンスを全面委託していただき国内のどこでも安心してご使用いただいております。
- 3** 油圧装置やウィング破損などの修理や整備を安心して任せたい。
 ▶ 豊富な実績、高度な技術力、きめ細かな点検・整備を行うことで、コンテナを永くご使用いただいております。
- 4** メンテナンスに時間をかけてお客様に迷惑をかけたくない。
 ▶ 土・日・祝日も24時間営業でご対応しております。パーツセンターに近く、部品もすぐに入手可能です。



モーダルシフトを推進するために26個導入された31ftウィングコンテナ



鉄道用にも、トラック輸送でお馴染みのウィング機能を搭載
 フルハーフサービスの的確なメンテナンスにより、導入から8年後も問題なく使用されている



2年に一度は油圧装置の定期点検を行っている。パッキンが経年劣化した場合は、溶着修理している。

フルハーフサービス 拠点紹介



▲本社厚木工場
 神奈川県愛甲郡愛川町中津桜台4077-2
 TEL.046-285-0585



▲茨城工場
 茨城県石岡市大字柏原17-3
 TEL.0299-24-1278



▲岩手工場
 岩手県紫波郡紫波町犬淵字谷地田103-3
 TEL.019-672-6472

サービス内容

各種トレーラ、トラックボディ修理、サービス業務、中古ボディ・コンテナ販売

アルミ軽量コンテナと信頼のメンテナンスでモーダルシフトに貢献
 1989年にJR貨物様が試作した日本初の30ftウィングコンテナは当社製でした。物流業界における地球温暖化対応が高まる中、道路&鉄道のモーダルシフト需要は、ますます増え続けています。鉄道コンテナは今後もさらに積荷の安全・安心・効率輸送へ向かい、大型化、保冷化へと発展する傾向です。当社の31ftウィングコンテナはアルミ製で軽量というメリットを生かし、お客様の高効率、環境配慮輸送のお役に立ちたいと考えております。メンテナンスは日本フルハーフの直営サービス工場であるフルハーフサービスの熟練技術者の確かな整備でスピーディー&信頼のメンテナンスを行い、さらなるモーダルシフトに貢献していきたいと思っております。

フルハーフサービス 6つのメリット

- 1** パーツセンター、工場ラインと直結、スピーディーな対応
 本社厚木工場は、部品を在庫しているパーツセンターや日本フルハーフ工場の隣にあり、部品在庫が切れている場合でも、すぐに取り寄せることができ、スピーディーな修理対応が可能です。
- 2** 土・日・祝日も営業、24時間いつでもすぐに対応
 緊急を要することが多いトラックボディの修理にも、24時間年中無休（正月、盆休みは除く）で対応しています。お客様の輸送業務がストップしないように、総勢約30名のスタッフで、精一杯の努力をしております。
- 3** 豊富な実績、高度な技術スタッフによる信頼のメンテナンス
 技術スタッフにはしっかりとした技術教育を行うとともに、様々な資格を取得したスタッフを揃えていますので、クオリティの高い修理・メンテナンスをご提供。製品のライフサイクルを伸ばします。
- 4** ボディ載せ換えや冷凍機メンテナンスにも対応可能
 ボディの載せ換え、修理に対応できる大型設備を有しているなど、多種多様な修理に対応できます。また、冷凍車の現場断熱発泡工事にも対応しているとともに、冷媒関連の資格取得者もいるため冷凍機メンテナンスも可能です。
- 5** 他社製品の修理にも対応可能
 当社では長年にわたり培ってきた修理・メンテナンスのノウハウにより、他社製品の修理も承っております。お気軽にご相談ください。
- 6** 幅広いサービスネットワークでいつでもどこでも修理対応
 フルハーフサービスは厚木工場のほか、茨城、岩手にもサービス工場があります。いずれも土・日曜日営業しており、スピーディーな修理・メンテナンスをご提供しております。また、日本フルハーフの全国サービスネットワークにより生産工場、200箇所以上のサービス提携店でもお客様のご要望にお応えしております。

